

## インターバンクの声（2017年6月21日）

昨日の東京市場の夕方、イングランド銀行カーニー総裁の「インフレ圧力が低下しており、利上げの時ではない」との発言が伝わった。利上げを意識し始めていた市場にとっては少しショックが大きかったようで、あっという間にポンドが80ポイント近く下落した。カーニー総裁発言が伝わる前には1.27ドル台中盤で取引されていたポンドだったが、ニューヨーク市場中盤には1.26ドル割れ寸前までポンド売りが進んだ。

一方、大きく動いたポンドとは対照的に、円やユーロはそれぞれ111円台、1.11ドル台での値動きに終始しており、ニューヨーク市場の途中からは値動きも止まってしまった。

前日のニューヨーク連銀ダドリー総裁に続き、昨日のボストン連銀ローゼングレン総裁もタカ派寄りの発言をしているが、米長期金利の低下で若干売られていたドルを買い戻すきっかけにはなつたものの、レンジから抜け出すほどのインパクトはなかつた。

週の後半もFRB高官の講演が複数予定されているが、先週末の米住宅着工や建設許可の数字が悪かったので、今晚から3日連続して発表される米住宅関連指標の結果が気になる。

---

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複製もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。